

鬼北句会

バス降りて二分が遠し炎天下
 遺されし吾も六十路や終戦日
 炎天や放牧牛の見あたらす
 雷鳴やひびに粉菜こぼしけり
 燃え咲きて火の見櫓に凌霄花
 炎天に玉音聞きて六十年かな
 黙々と同行二人炎天下
 布袋草藍と青空瓶覗く
 歯真白目玉ぎよろぎよる日焼の子
 一病も息災なれや夏の果
 帰り来て日傘たためば日の香り
 裏口へ廻るつき合ひ白桔梗
 早畑いっかな鍼をよせつけず
 凌霄花赤赤ともえ日は沈む
 一人居にさげ得ぬスイカ届きけり
 夕立の去りてまさをの空残り

大川 眺春
 毛利 知子
 善家 信景
 善家 三代
 善家 章
 上甲 正志
 上甲 武英
 兵頭イソ子
 松本 久江
 滝本 明
 松岡 寛孝
 芝 都留
 新倉地映子
 芝 光恭
 白敷フサ子
 上甲 斗志

きほく川柳会

若葉照りみごとに映える庭の木々
 草花をつないでママのネックレス
 石楠花にうもれて若い妻のまま
 刺身には妻いっばいを付けて盛る
 愚痴一つ風は黙って聞いてくれ
 熱愛は過去の夢かよ蜃気楼
 あった筈仕舞ったはずとさがしもの
 大きな口開けてばあちゃん昼寝中
 舞い終えた余韻にひたる舞台裏
 どうしてこう忙しいのかボケられぬ
 ツワブキを見て思い出す里の海
 桃の花あの子の頬と同じ色
 ご意見番昔はいたよ街の中
 田舎道すれちがう人好きな人
 じりじりと嫁は姑をおびやかす
 下戸の子が呑むとみんなが不思議がり

武田 浅美
 高田トヨ子
 若宮 賢敬
 畠山 千歳
 兵頭 紀子
 水野 貞子
 都 瞳
 宮本ヨリヲ
 宮脇マサエ
 山本 益恵
 大西 広洋
 松本 実
 那須 栄山
 芝 幸子
 土居 恒三
 村上よしこ



大きくなったら 三島小学校

ぼくは、あるいとあつがま
 えるけいさつかんになりた
 す。あるいことまであたら、み
 んながこまります。たいせつな
 おかねをどられたら、たいへん
 だがります。

ぼくは、あるいとあつがま
 えるけいさつかんになりた
 す。あるいことまであたら、み
 んながこまります。たいせつな
 おかねをどられたら、たいへん
 だがります。

けいさつかんになりた
 ぼくは だば ひろと

わたしは、かんごしになりた
 いと思、ています。けがやひ
 うさの人をなわしてあげられる
 むです。それに、かんごしど
 んのつらい気持ちをわが、てあ
 げて、ほげましてあげられるた
 いせ、なれと、だからです。

わたしは、かんごしになりた
 いと思、ています。けがやひ
 うさの人をなわしてあげられる
 むです。それに、かんごしど
 んのつらい気持ちをわが、てあ
 げて、ほげましてあげられるた
 いせ、なれと、だからです。

けいさつかんになりた
 ぼくは だば ひろと

わたしのしゅう来のゆめは、
 かんごしになることです。前に
 おばあちゃんがかんごしで入
 んしたとき、とてもうれしそ
 うな顔で来てくれました。わたしは
 早くかんごしをなわしてあげた
 いと思、ていました。い、しゅうけ
 んめいばんきょうをなわして、お人
 なをなわしてあげたいか、お
 しになりたいです。

わたしのしゅう来のゆめは、
 かんごしになることです。前に
 おばあちゃんがかんごしで入
 んしたとき、とてもうれしそ
 うな顔で来てくれました。わたしは
 早くかんごしをなわしてあげた
 いと思、ていました。い、しゅうけ
 んめいばんきょうをなわして、お人
 なをなわしてあげたいか、お
 しになりたいです。

けいさつかんになりた
 ぼくは だば ひろと

ぼくのしゅう来のゆめは、
 かんごしになることです。前に
 おばあちゃんがかんごしで入
 んしたとき、とてもうれしそ
 うな顔で来てくれました。わたしは
 早くかんごしをなわしてあげた
 いと思、ていました。い、しゅうけ
 んめいばんきょうをなわして、お人
 なをなわしてあげたいか、お
 しになりたいです。

わたしのしゅう来のゆめは、
 かんごしになることです。前に
 おばあちゃんがかんごしで入
 んしたとき、とてもうれしそ
 うな顔で来てくれました。わたしは
 早くかんごしをなわしてあげた
 いと思、ていました。い、しゅうけ
 んめいばんきょうをなわして、お人
 なをなわしてあげたいか、お
 しになりたいです。

けいさつかんになりた
 ぼくは だば ひろと